

富士精版印刷(株) 品質セミナー&工場見学会 印刷トラブルと本気で 戦う会社

開催:3月10日(金)13:00~ 富士精版印刷株式会社 本社工場・市島工場



市島工場 輪転機



本社工場 ポストプレス課での説明風景

は品質管理室によって調査された報告書が発行され、発生部署・事故内容・損失金額・対策を記載し、不良見本を添付して、全社員に開示し、原因究明・再発防止に取り組んでいる



市島工場前での集合写真

ことが説明された。その後、3グループに分かれて本社工場内のデザイン、製版、枚葉印刷、製本加工の各工程を見学。ルールに基づいた抜き取り・検品、チェック

シートに基づいた製品管理、誰にでも判るように表記が徹底した設備などを実際に拝見することができた。本社工場の見学後、一行はバスにて市島工場へと移動。従来は輪転機4



富士精版印刷(株)本社 セミナー風景

3月10日(金)13時より淀川区の富士精版印刷(株)本社工場において「品質セミナー&工場見学会」が開催され、69名の参加者となった。開催にあたり長年、品質管理に関して本気に対処し、「印刷トラブルゼロ」に挑戦してきた歴史、現状、今後の取り組みの集大成である『品質管理365日』の冊子が配布され、各工程における様々な事故事例が紹介された。

受注生産においては幾多の工程を経て製造が進むなかでどのような事故の発生要因があるのか、どうすれば企業にとって利益のマイナス発生を低減できるのか、ヒヤリハット事例が事故に繋がらぬよういかに対策するか、などの事例報告を紹介いただいた。

またこれらの事例を社内だけでなく協力会社にも水平展開を図っており、その根本にあるのは石川会長の「事故はかくすな。正直に報告し、原因を追究せよ」の品質に対する方針がすべての根本となり、全社員に浸透し、それが顧客ニーズに対応して社会から高い評価を得られる品質に繋がっていることがひしひしと感じられた。あわせて事故発生後に

台体制であったが、受注量の変化に応じて現在は最新鋭のA1輪転機2台、B2輪転機1台のラインナップとなつて24時間体制でフル稼働している。チョッパー折出し、シート出し、パーフォレータ加工などバリエーションに富んだ印刷が高速で進行するなか、カメラ画像による品質チェックや定数毎の抜き取りによる目視点検が実施されている様子を見学した。

デザイン、製版、枚葉印刷、輪転印刷、製本加工にまでトータルかつ隅々まで品質管理され、またそのイズムが浸透しきつている感じがしたセミナーと工場見学であった。

最後に参加者の感想を一部紹介しておきます。

ミスして終わり、というのが自社では多かった。

今後の対策について、本日のセミナーでのことを役立てたい。

「全社上げて」の品質に対する取り組みと真剣さの違いを感じた。

ミスへのこだわり部分について、製造のプロとしての気持ちは分かった。

これらの意見も踏まえて今後もまた見学の機会を設けていただければと思います。

(報告)経営合理化委員会 徳井 暁